

発行所

旭川市旭山動物園
動物図書館
☎ 36-1104



夏の開園は10月19日まで
20日は市民無料特別開園日です

ASAHIYAMA Zoo

夏の開園 あとわずか

ザリー
うるる
かれん

士別からやってきました

こども牧場に、3頭のヒツジが仲間入りしています。今、飼育しているヒツジと同じ種類、黒い顔のサフォーク2頭とポールドーゼット1頭です。健康診断や検疫などがある冬の開園頃には、放飼場で元気に遊ぶ姿が見られます。どうぞお楽しみに。

紅葉が色づいてきた旭山では、夏の開園も残りわずかとなりました。冬の気配を感じて動物たちも着々と寒さへの準備をしています。

北海道産動物舎では動物たちの冬支度の様子が見られます。エゾキウサギは足先や耳の先から徐々に白くなっています。これまで冬の間に、キウサギは展示していませんでしたが、今年展示する予定です。雪が積もる頃には白い雪の中でたたくむ真つ白なキウサギが見られます。

また、エゾリスがクルミなどのエサを地面に埋める様子も見られます。秋に野生のエゾリスは、ドングリやクルミなどを地面から数センチのところに埋めておきます。これはエサの少ない冬に、それを掘り起こして食べるためです。

小動物舎の、ホッキョクギツネの毛色も、冬毛に生え替わってきています。美しい真っ白な毛並みが見られるまで、もうすぐです。



冬のホッキョクギツネ

紅葉が色づいてきた旭山では、夏の開園も残りわずかとなりました。冬の気配を感じて動物たちも着々と寒さへの準備をしています。

北海道産動物舎では動物たちの冬支度の様子が見られます。エゾキウサギは足先や耳の先から徐々に白くなっています。これまで冬の間に、キウサギは展示していませんでしたが、今年展示する予定です。雪が積もる頃には白い雪の中でたたくむ真つ白なキウサギが見られます。

また、エゾリスがクルミなどのエサを地面に埋める様子も見られます。秋に野生のエゾリスは、ドングリやクルミなどを地面から数センチのところに埋めておきます。これはエサの少ない冬に、それを掘り起こして食べるためです。

小動物舎の、ホッキョクギツネの毛色も、冬毛に生え替わってきています。美しい真っ白な毛並みが見られるまで、もうすぐです。

冬への準備、着々と



冬←秋



放飼場に土をいれたい

風や雨で流れ出てしまった土をたすのも、スコップや一輪車を使っての力仕事。

プールの大掃除は、年に3回。水を全部ぬき、デッキブラシでゴシゴシみがきます。夏の間についた藻やコケをきれいに取り除きます。これは1日がかりの大仕事。

たい肥出し

ワピチやエゾシカの放飼場で、たまったウンチや干し草などを取り除きます。「くさい」なんていってられません。



動物舎プールの大掃除

おしえて! どうぶつえんのお仕事

- 寒い冬にそなえて、秋は忙しい季節。動物園がお休みの間、飼育展示係はどんなことをしているのでしょうか? 厳しい寒さがくる前に、大忙しの毎日です。

動物園の冬じたく

普段できない大掃除もします。とりの村の池の水を抜き、落ち葉やゴミをかき集めます。あざらし館やペンギン館・ほつきよくぐま館でも、プールの水を全部抜きながら掃除をし、およそ3ヶ月分の汚れを手作業で洗いおとしていきます。冬の開園前にこれらを終わらせるため、休園期間にはあつという間に過ぎてゆきます。

冬の準備がかわるといよいよ、冬の動物園がはじまります。みなさんも寒さに備えて、暖かい服装で来てください。

動物園がお休みの間、飼育展示係は...

冬の開園(11月1日)まで、動物園はお休みですが、飼育展示係はお休みではありません。むしろ1年のなかでも、とても忙しい時期です。休園中、毎日午後から「共同作業」というものがあり、飼育係が丸となって大がかりな冬支度をするのです。

寒さに弱い動物たちを、暖かい部屋に移動したり、放飼場に敷いてある汚れたチップ(木くず)を出したりします。また、ワピチの放飼場ではたい肥出しの作業もあります。

部屋の中の様子



鳥たちは部屋へ運ばれ、春までここで過ごします。



一方で待ち伏せしていた飼育係が、鳥たちの飛び立つ方向を見定めて、すばやく網でキャッチ。



胸まである長靴をはいて池に入り、そっと鳥たちに近づきます

とりの村では

「とりの村」にはカモやガン・ハクチョウなど100羽近くの水鳥がいます。秋の休園期間に全部を収容し、冬の間は暖かい部屋ですごします。